

鹿兒島県から得られたシャチブரி科の稀種ヒョウモンシャチブரி

藤原恭司¹・久米 元²・本村浩之³¹ 〒 890-0065 鹿兒島市郡元 1-21-24 鹿兒島大学大学院連合農学研究科² 〒 890-0056 鹿兒島市下荒田 4-50-20 鹿兒島大学水産学部³ 〒 890-0065 鹿兒島市郡元 1-21-30 鹿兒島大学総合研究博物館

■ はじめに

シャチブரி科は三大洋の深海域に広く分布し、日本国内からはシログチシャチブரி *Ateleopus edentatus* Kaga, 2016, シャチブரி *Ateleopus japonicus* Bleeker, 1853 (ムラサキシシャチブரி *Ateleopus purpureus* Tanaka, 1915 とタナベシャチブரி *Ateleopus tanabensis* Tanaka, 1918 は *A. japonicus* の新参異名), ヒョウモンシャチブரி *Guentherus katoi* Senou, Kuwayama and Hirate, 2008, およびオオシャチブரி *Ijimaia dofleini* Sauter, 1905 の 3 属 4 種が知られている (藍澤・土居内, 2013; Kago et al., 2015; Kago, 2016).

2019 年 6 月 3 日に鹿兒島県宇治群島の宇治島沖から 1 個体 (体長 781.0 mm, 全長 840 mm) のシャチブரி科魚類が採集され, 特徴的な体型や腹鰭の形態からヒョウモンシャチブりに同定された. 本種は熊野灘と沖縄諸島の久米島沖から採集された 3 個体に基づき Senou et al. (2008) によって記載され, その後の標本に基づく追加報告がない稀種である. したがって, 本研究は本種の 2 例目の記録となるとともに, 形態の特徴や分布域の知見蓄積となるためここに報告する.

Fujiwara, K., G. Kume and H. Motomura. 2019. Record of a rare species of Ateleopodidae, *Guentherus katoi*, from off Uji Islands, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 46: 155–158.

✉ KF: The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1–21–24 Korimoto, Kagoshima 890–0065, Japan (e-mail: kyojifujiwara627@yahoo.co.jp).

Published online: 18 October 2019

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-031.pdf

■ 材料と方法

計数・計測方法は Senou et al. (2008) にしたがった. 標準体長は体長または SL と表記した. 計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い, 計測値は体長に対する百分率 (%) で示した. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿兒島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

■ 結果と考察

Guentherus katoi Senou, Kuwayama and Hirate, 2008
ヒョウモンシャチブரி (Figs. 1, 2)

標本 KAUM-I. 130234, 体長 781.0 mm, 全長 840 mm, 鹿兒島県宇治群島宇治島北方約 4 km 沖 (31°15'07"N, 129°28'41"E), 水深 400 m, 2019 年 6 月 3 日, 底曳網, 重徳丸, 倉津和孝.

記載 背鰭軟条数 11; 胸鰭軟条数 15; 腹鰭軟条数 3 (遊離軟条) +7; 臀鰭軟条数 77; 尾鰭分枝軟条数 10; 鰓耙数 5+17. 体各部計測値の体長に対する割合 (%): 頭長 25.8; 吻長 9.8; 眼径 4.9; 両眼間隔 6.8; 上顎長 11.8; 背鰭前長 35.9; 臀鰭前長 53.6; 腹鰭起部での体高 24.1; 肛門での体高 23.7; 頭幅 13.8; 背鰭高 19.3; 背鰭基底長 9.1; 胸鰭長 22.7; 胸鰭基底長 4.0; 腹鰭第 1 遊離軟条長 24.9; 腹鰭第 2 遊離軟条長 8.7; 腹鰭第 3 遊離軟条長 14.2; 腹鰭長 12.0; 臀鰭最長軟条長 11.1; 臀鰭基底長 48.0; 尾鰭最長軟条長 8.7.

体は側扁し, 太短いりボン状 (Fig. 1A). 体表はひじょうに柔らかく, 鱗と側線を欠く. 体高は

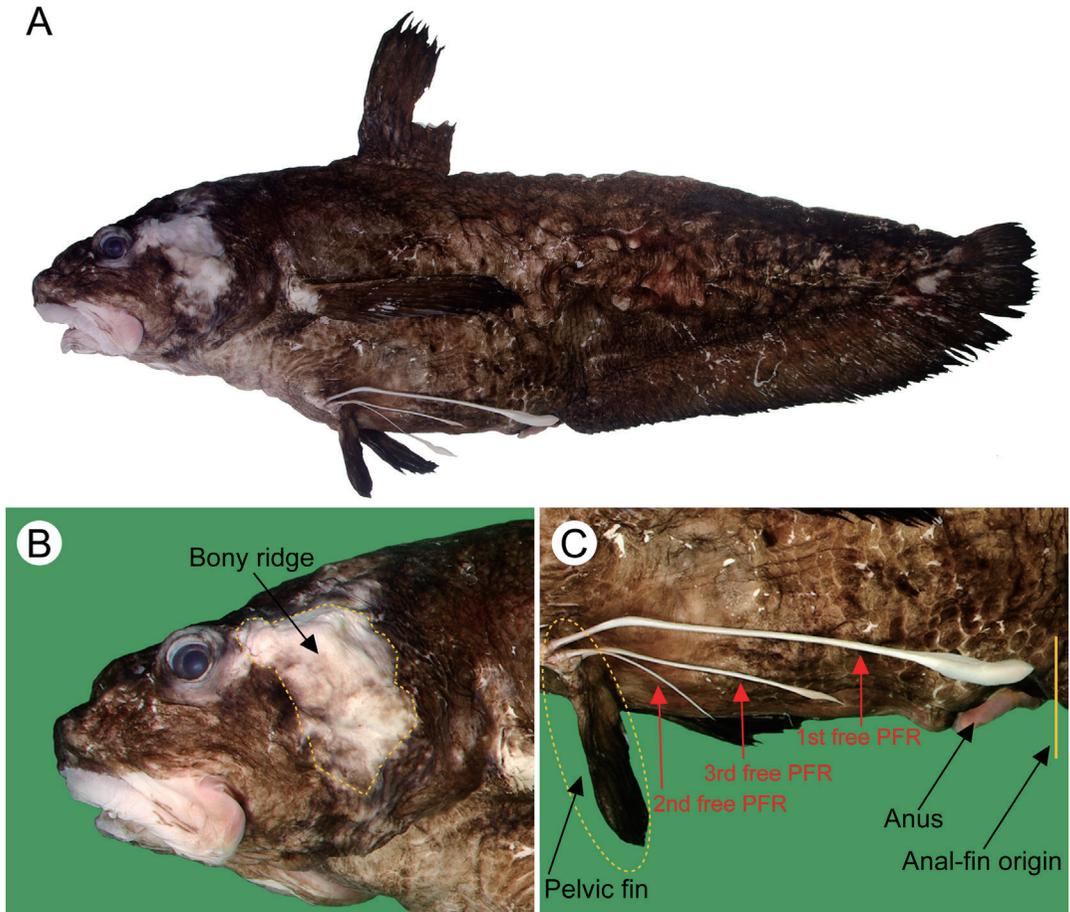


Fig. 1. Fresh specimen of *Guentherus katoii* from off Uji-jima island, Uji Islands, Kagoshima Prefecture, Japan. A, whole body; B, close up of head; C, close up of pelvic fin. Pelvic-fin ray abbreviated as PFR.

背鰭起部で最大。肛門は臀鰭直前に開孔する。頭部はやや大きく、体長は頭長の3.9倍。吻部は前方で僅かにへこむ。吻端は鈍く尖り、上顎先端を僅かに越える。鼻孔は2対で、互いに接近し、眼直前に位置する。後鼻孔は前鼻孔より大きく、前者の大きさは後者の約2倍。両鼻孔ともに皮弁を備える。口はひじょうに大きく、上顎後端は眼後縁を越える。上顎先端は下顎先端よりも著しく突出する。口内に歯は全く無い。両唇ともひじょうに厚く、柔らかい皮状。主上顎骨はひじょうに幅広く、後縁は丸みをおびる。眼はやや大きく、上方に位置し、上縁は頭部背縁に含まれる。眼直後に台形状の大きな骨質隆起がある (Fig. 1B)。鰓蓋は尖らず、後縁は直線状。鰓蓋上端は胸鰭基部より上方に位置する。鰓耙はよく発達し、細長い

棒状で、先端は鈍く尖る。背鰭は高く、背鰭高は基底長よりもはるかに大きい。背鰭先端はやや尖り、各鰭条は僅かに伸長する。背鰭起部は胸鰭基部よりも僅か後方に位置する。胸鰭は体軸上、鰓蓋後縁直後に位置し、先端は肛門直上に達する。胸鰭基部は腹鰭基部とほぼ同大。腹鰭はよく発達し、前方の3軟条が遊離する (Fig. 1C)。第1遊離軟条は最も太長く、その先端は肛門後縁に達する。第2遊離軟条は最も細短く、その長さは第1遊離軟条の約三分の一。第3遊離軟条は第1・2遊離軟条の中間の長さ。第1・3遊離軟条の先端は披針形に発達し、特に第1遊離軟条先端はよく発達する。先端の披針形部は滑らかで、突起などを欠く。第2遊離軟条先端は細長い糸状。遊離軟条より後方の腹鰭鰭条は鰭膜で完全につながる。

腹鰭はやや尖り、ただ先端は第2遊離軟条を越える。臀鰭は基底がひじょうに長く、体長の半分近くを占める。臀鰭軟条は前方から後方にしたがい長くなる。尾鰭は小さく、下縁は鰭膜で臀鰭とつながる。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) : 体は全体的に黒褐色で、体側前方の中央部から腹部にかけては不明瞭な小黒褐色斑が密にはいる。口部と頭部の骨質突起は白色。各鰭は腹鰭遊離軟条を除き、黒褐色。腹鰭遊離軟条は一樣に白色。

分布 太平洋沿岸の熊野灘 (三重県) と東シナ海の宇治島沖 (鹿児島県) および久米島沖 (沖縄県) からのみ記録されている (Senou et al., 2008 ; 本研究 : Fig. 2)。

備考 記載標本は体に鱗や側線を欠くこと、頭長が体長の 25.8% (以下 % SL) であること、上顎長が 11.8% SL であること、第1・3遊離腹鰭軟条先端の披針形部が白色であることが Senou et al. (2008) が示したヒョウモンシャチブリ *Guentherus katoi* の識別的特徴とよく一致した。一方、同様に本種の識別的特徴である眼径と背鰭高の値および体色については Senou et al. (2008) と比べ、以下の通り僅かな相違が確認された (眼径 : -0.3% SL ; 背鰭高 : -1.6% SL ; 体色 : 全体的に黒褐色で小黒褐色斑が少ない)。しかし、これらの相違は僅かであることに加え、原記載の標本数が3個体と少ないことからヒョウモンシャチブリの種内変異であると考えるのが妥当である。また、記載標本の腹鰭遊離軟条長は原記載の値と比べ、著しく小さい (第1軟条 : -6.5% SL ; 第2軟条 : -4.1% SL ; 第3軟条 : -3.7% SL)。しかし、腹鰭遊離軟条の長さは種内変異が大きい形質と考えられ、同属他種である *Guentherus altivela* Osório 1917 でも同程度の相違が確認されているため (Bussing and López, 1977)、本研究でも腹鰭遊離軟条の長さの相違は種内変異であるとみなした。以上のことから、本研究で記載した鹿児島県産の1標本はヒョウモンシャチブリ *G. katoi* に同定された。

ヒョウモンシャチブリは大西洋と東太平洋に分布する唯一の同属他種である *G. altivela* と比較

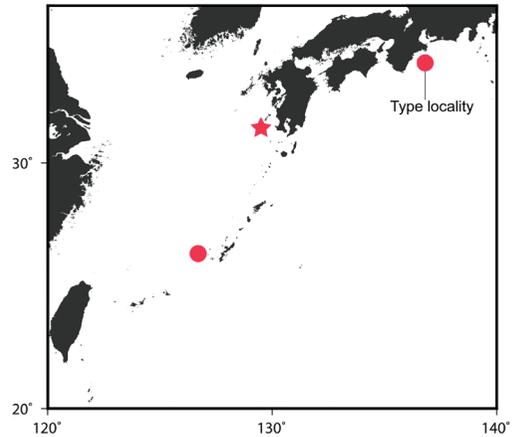


Fig. 2. Distributional records of *Guentherus katoi*. Star and circles indicate new and previous records, respectively.

して、体に鱗と側線を欠くこと、第1・3遊離軟条先端の披針形部が白色であること (全長 480 mm 以上の *G. altivela* では黒色で、全長 300–350 mm では第1遊離腹鰭軟条のみが黒色)、頭長が 25.6–26.0% SL (26.4–35.0% SL)、眼径が 4.9–6.0% SL (2.4–3.5% SL)、上顎長が 11.7–13.0% SL (13.5–18.6% SL)、および背鰭高が 19.3–23.9% SL (26.2–32.7% SL) であることから容易に識別される (Senou et al., 2008 ; 本研究)。Senou et al. (2008) が指摘したヒョウモンシャチブリと *G. altivela* の体色の相違 (前者は体に小黒褐色斑が多くあるのに対して、後者は一樣に黒褐色) について、本研究では上述のように前者の特徴に変異が確認されたため、識別に有効な形質が検討が必要である。

ヒョウモンシャチブリは熊野灘と沖縄諸島の久米島沖から採集された3個体に基づき記載され、その後の標本に基づく追加報告はなかった。したがって、本研究は本種の2例目の記録になるとともに九州からの初記録となる (Fig. 2)。また、これまで知られていた本種の最大サイズは体長 694.2 mm であるため (Senou et al. 2008)、記載標本 (体長 781.0 mm) は本種の最大サイズを僅かに更新するものとなる。ヒョウモンシャチブリは大型に成長することに加え、シャチブリ科魚類の中で特徴的な形態 (太短い体型や腹鰭遊離軟条など) にも関わらず、他シャチブリ科魚類と比べ、記録例は格段に少ない。これは本種が漁業の行い

にくい急峻な岩場などに生息している可能性や生息個体数自体が著しく少ない可能性が考えられる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり倉津和孝氏（重徳丸）にはヒョウモンシャチブ리를採集していただいた。鹿児島大学大学院連合農学研究科の和田英敏氏には標本作成に際し、多大なご協力をいただいた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同館魚類分類学研究室の皆さまには標本の調査にご協力していただいた。これらの方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS 科研費（19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265）、JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学

省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境（生物多様性・島嶼プロジェクト）学長裁量経費の援助を受けた。

■ 引用文献

- 藍澤正宏・土居内 龍. 2013. シャチブリ科. Pp. 410–411, 1845. 中坊徹次（編）. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Bussing, W. A. and M. I. S. López. 1977. *Guentherus altivela* Osorio, the first atelepodid fish reported from the eastern Pacific Ocean. *Revista de Biología Tropical*, 25: 179–190.
- Kaga, T. 2016. A new jellynose, *Ateleopus edentatus*, from the western Pacific Ocean (Teleostei: Ateleopodiformes: Ateleopodidae). *Zootaxa*, 4083: 562–568.
- Kaga, T., M. J. P. van Oijen, Y. Kubo and E. Kitagawa. 2015. Redescription of *Ateleopus japonicus* Bleeker 1853, a senior synonym of *Ateleopus schlegelii* van der Hoeven 1855, *Ateleopus purpureus* Tanaka 1915, and *Ateleopus tanabensis* Tanaka 1918 with designation of a lectotype for *A. japonicus* and *A. schlegelii* (Ateleopodiformes: Ateleopodidae). *Zootaxa*, 4027: 389–407.
- Senou, H., S. Kuwayama and K. Hirate. 2008. A new species of the genus *Guentherus* (Ateleopodiformes: Ateleopodidae) from Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science (Series A) Supplement*, 2: 13–19.